目次

第一講　演習問題⑴……p.2
第二講　演習問題⑵……p.8
第三講　演習問題⑶……p.14
第四講　演習問題⑷……p.20
第五講　演習問題⑸……p.26

第一講　演習問題(1)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

宇治に住む浮舟が、薫と匂宮という二人の貴公子に愛され悩んでいた。薫が浮舟を都へ迎えようとしていることを知った匂宮は、薫より先に浮舟を引き取ろうとした。そのような折、浮舟に仕える右近という女房が、浮舟に自分の姉をめぐる話を始めた。

「右近が姉の、常陸にて人二人見はべりしを、ほどほどにつけては、ただかくぞかし。これもかれも劣らぬ心ざしにて、思ひまどひてはべりしほどに、女は、今の方にいますこし心寄せまさりてぞはべりける。それにねたみて、つひに今のをば殺してしぞかし。さて我も住みはべらずなりにき。国にもいみじきあたら兵一人失ひつ。また、この過ちたるもよき郎等なれど、かかる過ちしたるものを、いかでかは使はんとて、国の内をも追ひ払はれ、すべて女のたいだいしきぞとて、館の内にも置いたまへらざりしかば、東国の人になりて、ままも[注]、今に、恋ひ泣きはべるは、罪深くこそ①<u>見たまふれ</u>。ゆゆしきついでのやうにはべれど、上(かみ)も下(しも)も、かかる筋のことは、思し乱るるはいとあしきわざなり。ア<u>御命までにはあらずとも、</u>

人の御ほどほどにつけてはべることなり。死ぬるにまさる恥なることも、よき人の御身には[a]なかなかはべるなり。一方に[②]思し定めてよ。[注]宮も御心ざしまさりて、まめやかにだに[③]聞こえさせたまはば、そなたざまにもなびかせたまひて、ものないたく嘆かせたまひそ。痩せおとろへさせたまふもいとやくなし。さばかり[注]上(うへ)の思ひいたづききこえさせたまふものを、ままがこの[注]御いそぎに心を入れて、まどひゐてはべるにつけても、[イ]それよりこなたに、と聞こえさせたまふ御ことこそ、いと苦しく[b]いとほしけれ」

(『源氏物語』より)

注 まま…乳母。浮舟の乳母。右近の母。
宮…匂宮。
上…浮舟の母上。
御いそぎ…薫が浮舟を都に迎えるご準備。

問一　傍線部ア・イの解釈として適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ア
1　お命にまで及ばないのは、高位高官の人だけです。
2　お命も守れないことは、ご身分の高い人ほどよくあることです。
3　お命を捨てるまでもなく、どなたもほどほどになさるのが良いことです。
4　お命とひきかえに恥をすすぐことは、高貴な人ほどありがちなことです。
5　お命に関わるほどではなくても、どの身分でも男女の愛憎は起こるものです。

イ
1　匂宮よりも薫を選びなさい、とお勧めなさっている
2　乳母よりも浮舟の方が気がかりだ、と伝言しておられる
3　母上の方から、こちらにいらっしゃい、と仰っておられる
4　乳母よりも母上の言うことに従いなさい、とお話しておられる
5　薫に迎えられるより先に、匂宮が引き取ろう、と申しておられる

問二　傍線部ａ・ｂの単語の意味をそれぞれ答えよ。

ａ＝

ｂ＝

問三 傍線部①〜③の主語は誰か。次の中からそれぞれ選べ。

1 浮舟　2 右近　3 右近の姉　4 匂宮　5 薫

①＝　②＝　③＝

問四 本文の内容に合致するものを、次の中から選べ。

1 右近の姉は、もとからの男のほうをより愛した。
2 右近の姉は、官舎から追放された。
3 殺された男の親類は、仇討ちをした。
4 三角関係は身分の低い者にありがちだ。

【練習問題】

① 次の傍線部の中から、「御前」の動作を示しているものを、後の中から選べ。

御前にも、近うさぶらふ人々、はかなき物語するを ア聞こしめしつつ、なやましう イおはしますべかめるを、さりげなくもてかくさせたまへる御ありさまなどの、いとさらなることなれど、憂き世のなぐさめには、かかる御前をこそたづね ウ参るべかりけれと、うつし心をばひきたがへ、たとしへなくよろづ エわすらるるにも、かつはあやし。

a　アイ　　b　イウ　　c　ウエ　　d　アエ

② 「よき御兄弟をお持ちなされしは、まことに御果報いみじき御事ぞ」とはどのような意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　私が良い兄弟を持ったのは、あなたにとってたいへんな幸せです。
イ　あなたが良い兄弟をお持ちになったのは、私にとってたいへんな幸せです。
ウ　あなたのような良い兄弟を私が持ったのは、私にとってたいへんな幸せです。
エ　私のような良い兄弟をあなたがお持ちになったのは、あなたのたいへんな幸せです。

③　次の傍線部の中から、動作の主体が他と異なるものを一つ選べ。

〜その時、郎等寄り来て、「今日はものさはがしく侍り。ア帰り給ひて、その用意して出家し給はば、よろしからん」と言ふに、イ腹立ちて、「おのれば許らひにては、我が思ひ立ちたることをば、いかで防げんとするぞ」とて、眼をいからして、太刀を引きまはせば、恐れをののきてウ立ちのきぬ。大方、今日の願主より始めて、ありとある人、色を失へり。近く居寄り、「只今、頭を剃れ。剃らでは悪しかりなん」と、しきりにエ責むれば、遁るべき方なくて、わななくわななく法師になしつ。衣・袈裟乞ひて、うち着てこれより西ざまに〜（中略）

かくしつつ、日を経て遥かにオ行き行きて、末に山寺ありけり。〜

模範解答

第一講

〈模範解答〉

問一　ア　5　イ　5

問二　a　かえって　b　気の毒だ

問三　①　2　②　1　③　4

問四　2

〈現代語訳〉

（右近が浮舟に言うことには）「私の姉が、常陸国で男二人と交際しましたが、（どんな人でも）身分に応じて、このような（複数の交際が起こる）ものなのですね。こちらの男もあちらの男も劣らない愛情で、思い迷っておりましたが、姉は、後から言い寄ってきた男のほうに少し気持ちが傾いておりました。（もとからの男は）それを妬んで、ついに後から言い寄った男を殺してしまったのです。それから自分も住んでいられなくなりました。国にとってもたいそう惜しい武士一人を失った。また、この過ちを犯した男もすばらしい家来なのだが、このような過ちを犯した者を、どうして使うことができようか（、いや、できない）ということで、国内から追い払われ、すべては女が軽率だからだといって、館の中にも置いてくださらなかったので、（姉は）東国の田舎人になって、乳母〔＝私の母〕も、いまだに、恋しがって泣いておりますのは、罪深いことだと（私は）見ております。縁起でもない話のついでのようでございますが、身分が上の人も下の人も、このような（男女関係の）方面のことは、お迷いになるのはとてもよくないことである。お命に関わるほどではなくても、どの身分でも男女の愛憎は起こるものです。死ぬことにもまさる恥であることも、貴い身分の御方にはかえってございます。（薫か匂宮か）一方にお心をお決めなさいませ。匂宮もご愛情が（薫よりも）まさって、真剣にお申し込みくださるのでさえあれば、そちらの方にお心を決めなさって、あまりお嘆きなさいますな。（お悩みになって）痩せ衰えなさるのはたいへんかいがない。あれほどあなたの母上様

が（あなたを）ご案じ申し上げなさっているのに、乳母〔＝私の母〕が（薫があなたを都に迎えるということで、あなたが薫のもとに移る）ご準備に余念が無く、大騒ぎしておりますのにつけても、薫に迎えられるより先に、匂宮が引き取ろう、と申し上げなさっていることが、とても苦しく気の毒だ。」

【練習問題】

①　a　　②　エ　　③　ウ